

国立衛生試験所百年史 正誤表および注

— 正 誤 表 —

ページ	行	誤	正
式辞 7	上 13	近年は生物系部門が互に	近年は生物系部門と理化学部門が互に
6	写真左		(注参照)
6	上 7	大阪理学所, ついで大阪開成学校と改称,	理学校と改称, ついで大阪開成所分局となり,
6	上 8	同年	間もなく
8	下 14~13	9月28日歿	9月8日歿
8	下 12	父は俊達で	祖父は俊達で
16	下 5	小石第二郎	小石第二郎
24	下 6	元理学校の	元理学校(元大阪舎密局)の
39	写真		(注参照)
148	上 18	規格試験室	規格研究室
152	上 2	規格試験室	規格研究室
169	上 2	規格改良室	規格研究室
382	(中)上2~3	理学所と改称し, ついで大阪開成学校となる	理学校と改称し, ついで大阪開成所分局となる
382	(中)上 20	催眠作用	催眠作用
390	(中)上 21	Bayer	Baeyer
394	(中)上 9	(明治16年医事薬事の最後に挿入)	大日本製薬会社(社長新田忠純)設立(わが国製薬会社の始)
394	(中)下 1	大日本製薬会社(社長長井長義)設立(わが国製薬会社の始)	(削除)
395	(中)上 1		
417	(右)上 7	アムゼン	アムンゼン
441	(中)上 9	ビタミンEを発見および単離	ビタミンEを単離
483	(右)下 3	シュミニ	ジュミニ
489	(中)上 8	B, HC	, BHC
496	(中)上 14	敦 湾	敦賀湾
498	(右)下 8	PBC	PCB

最近になって、菊地重郎（自然，1974年8月号，大阪舎密局の再発見），芝哲夫（自然，1975年6月号，大阪舎密局の跡をもとめて），宗田一（薬事日報，昭和50年6月21日，同昭和50年8月2日）の各氏によって，大阪舎密局の位置，大阪司薬場との関係，中之島の大阪司薬場と称する写真（国立衛生試験所百年史39p）の誤りなどが確認または指摘されました。そこでこれを注としてここに追記します。

#### 大阪舎密局の位置と大阪司薬場との関係

百年史6pの舎密局跡の碑は，旧制第三高等学校の前身がこの地にあったことから，第三高等学校同窓会が昭和12年に谷町の東側本町通に面して建立したものであるが，この位置は誤りで，舎密局は実際にはこれより北の大手通寄りであったということである。このことは古くは昭和14年に緒方銈次郎氏によって指摘され，その後もその説は支持されてきたが，今回上述の諸論文によってはっきりと確認された。この舎密局の建物は大手通に沿って東向きにコの字状に建てられていた。大阪舎密局は明治2年5月に開設され，翌3年5月には理学校と改称され，ついで10月には大阪開成所分局となったが，その後間もなく廃止された。

大阪司薬場が設置された明治8年頃には，元理学校の建物はその南にあった大阪英語学校の敷地内にあった。大阪司薬場は元理学校すなわち大阪舎密局の建物を譲り受けて開設されたのである。

#### 中之島の大阪司薬場と称する写真の誤り

百年史39pの写真の説明は昭和12年刊行の衛生試験所沿革史によったものであるが，それが誤りであることが上述の芝，宗田の両氏によって発見指摘された。この建物は大阪司薬場が中之島へ移る前の最初の司薬場（大阪舎密局の建物）の南隣りに建てられた教師館であったことが古文書などから実証された。写真の右手後方に見える屋根は大阪城の千貫櫓で，左手に少し見える建物が司薬場の南端である。なおこの教師館は明治8年司薬場がこの地に開設されたのも建てられたようである。

これらの結論に到達された諸氏のご努力に敬意と感謝の意を表しますとともに，謹んで訂正させていただきます。

今後とも，大小に拘らず，誤りをご指摘下さるようお願いします。

昭和50年10月

国立衛生試験所百年史

編集委員会